

保護者の方々に協力してもらおう

札幌市立厚別北小学校 吉田 信興



一人で抱え込む…悲しき小学校教師

私たち小学校教師は、全教科・全領域を教えなければならぬ“宿命”から、ついついどんなことも一人で抱え込んでしまいがち。学年TTが定着しつつありますが、年間でもほんの数時間ではないでしょうか。

保護者も「役に立ちたい」と思っている

先日、本校の校長室で校長と保護者の方々がこんな会話を交わしたそうです。

「学習等でお手伝いしていただけたことがありますら、ご協力していただけますか」

「どうぞ！どうぞ！家庭科でミシンの使い方を学習するときなどは、呼んでください。先生一人では大変でしょう？」

ミシンでナップサックを縫う時は、確かに保護者の方々のお力を借りてスムーズに学習が進むようにしたいものです。子供のためなら、保護者の方々は協力を惜しまず、役に立ちたいと考えているのです。

保護者をどんどん使う学習計画を

保護者の方々にご協力を来ていただく学習を計画することは、これから教育現場では大切なことです。様々な角度からの「参加」に期待しましょう。

ポイント

ある学級・学年だけが取り組むのではなく、学校としての取組が重要！

生活科や総合的な学習の時間で 保護者の方々に協力していきたい

魔法の知恵袋

ちょっと知恵を拝借！子供一人一人が課題をもち、いざ追求活動を始めようとする際、最も身近にいる知恵袋であるお父さんやお母さんに尋ねるのではないでしょうか。「おうちの人に聞いてみる」ことは立派な一つの方法です。

何でもできる職人技

ピアノの先生をしているお母さん、書道の名人のお父さん、ガーデニングならプロ級のおじいちゃん、昔の遊びが大好きなおばあちゃん…。学級には職人技をもつ方々が必ずいるはずです。その技を学習の内容に合わせて使いましょう。



生きる力を育む評価と支援を

生活科、総合的な学習の時間とともに、学習で得た知的な気付き等が自分の生活に役立ち、自分の生活を見直し、よりよく生活できるようにすることをねらっています。

- 学校での活動を、評価してもらいましょう。
- 学校での活動後、家庭生活に生かしているか等の情報をもらいましょう。
- 学校での活動が家庭生活に生かされるように、子供の生き方を見守り、また指導していただく支援者になっていただきましょう。